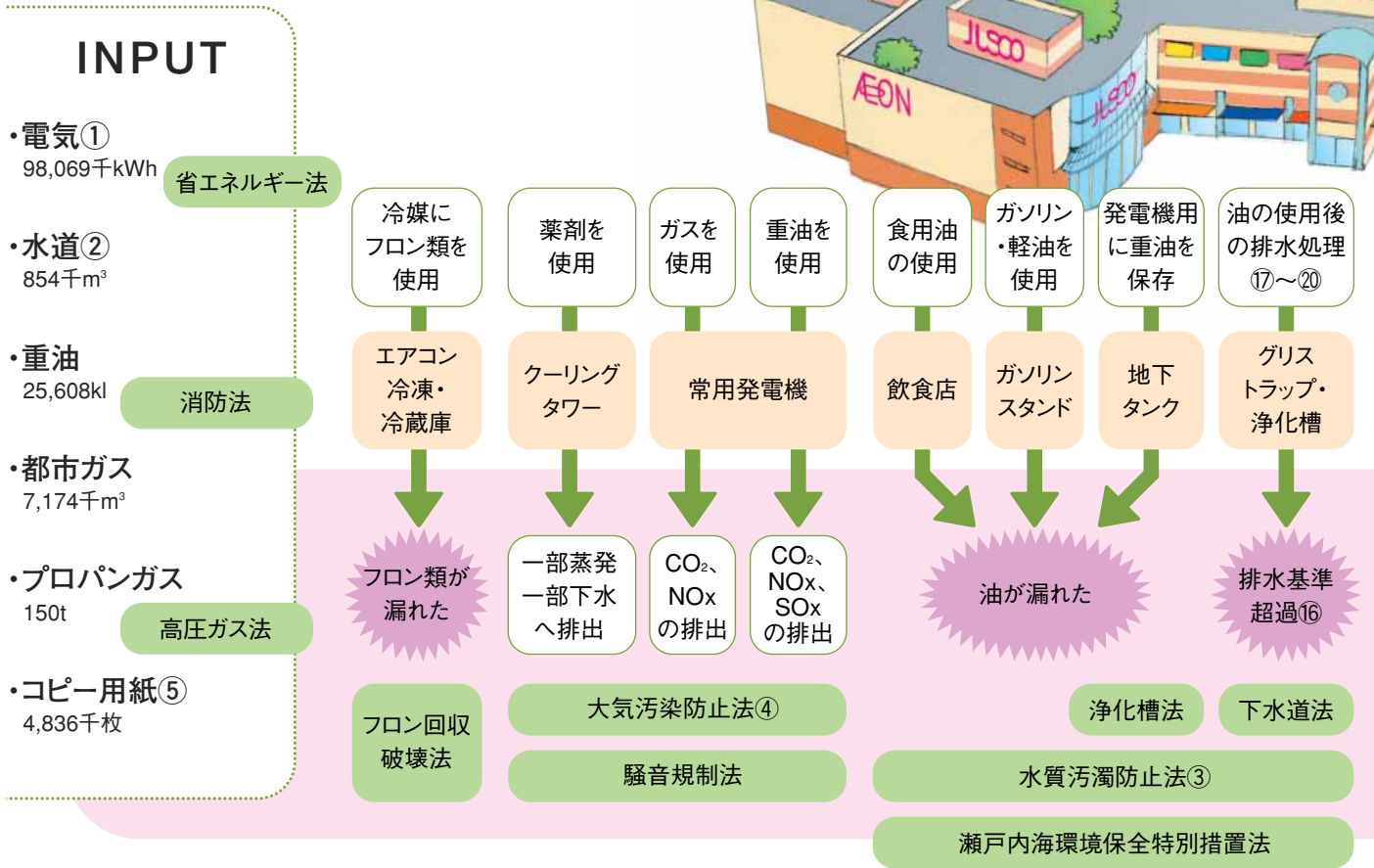


イオンモールと環境との関わり



全国のショッピングモール（16SC）と本社・保険営業部における2003年度の物質・エネルギーの使用量（INPUT）と排出量（OUTPUT）の把握とそれに関わる環境関連の法規制をまとめました。その結果、2004年度の各過程における項目を洗い出しました。



■ イオンモールの著しい環境側面

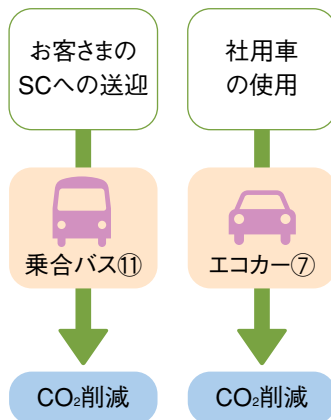
イオンモールの事業活動内における各過程での環境側面を把握し、環境保全に取り組んでいます。

● 2004年度の著しい環境側面

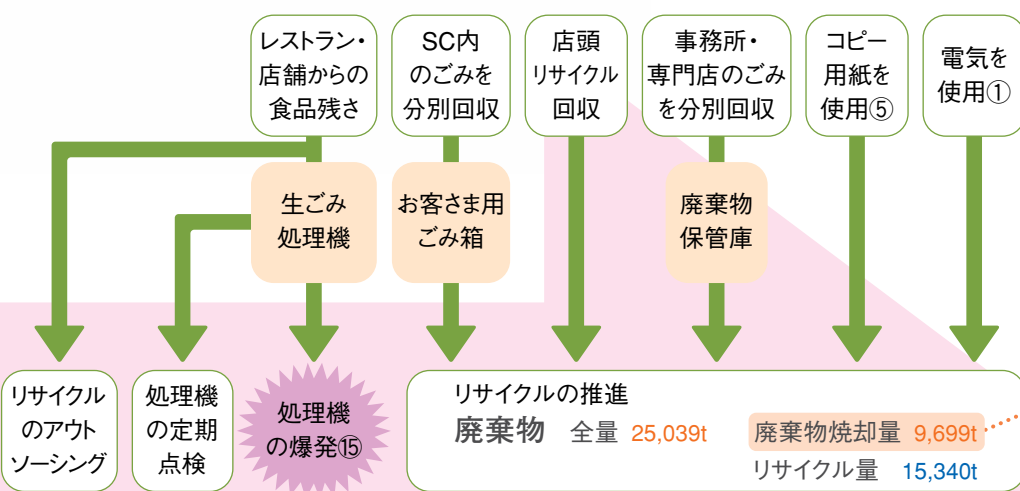
現在の業務	企画業務・ハード	ソフト	緊急事態	パートナーさま
① 電気の使用	⑧ エレベーターホール・駐輪場などの回路変更による電気削減	⑪ バス利用率の向上による車台数の削減	⑮ 生ごみ処理機の爆発事故の発生	⑲ フードコート（油の使用）
② 水道の使用	⑨ グリストラップ汚泥の排出ルールの作成と教育の推進	⑫ テクノ・ごみ庫・モールとのコミュニケーション向上	⑯ 浄化槽などの排水基準値超過	⑳ 自動車整備（油の使用）
③ 排水による汚濁	⑩ 計量システム導入による個店単位のごみ量把握と賃料への反映	⑬ 使用量の原単位管理の検討	⑰ 核店舗（ジャスコ）（油の使用）	
④ 排気による大気汚染	⑦ 社有車のエコカー導入	⑭ 環境問題を店長会議・業種部会の議題として話し合う	⑱ レストラン（油の使用）	
⑤ 紙の使用	⑥ クリーンエネルギーの導入（風力・太陽光・地熱）			

2003年度の著しい環境側面に関しては、特に大きな不適合はなく、今後もこれらの環境側面を正確に認識し事業に取り組んでいきます。

運営時
騒音規制法
健康増進法



設備
環境関連法
緊急時



OUTPUT

・CO₂
電気(買電分) 71,962t-CO₂
ガス 14,744t-CO₂
燃料 (重油、ガソリン、灯油) 69,186t-CO₂

廃棄物焼却 23,720t-CO₂

・排水 748千m³

廃棄物処理法

食品リサイクル法

※①～⑮は3ページ下のイオンモールの著しい環境側面の番号に連動しています。
※物質収支は、原則として、SC全体使用量から専門店使用量を引いた、SC使用量(共用部のみ)となります。
※電気は、買電と重油・ガスによる発電になります。重油・ガスの一部は発電以外にも使用されるためCO₂排出量合計が電気総使用量のCO₂排出量にはなりません。

木を植えたり、リサイクルすることで事業活動の中で排出しているCO₂を吸収し、騒音を低減させる効果があります。

イオングループ全体の
累計植樹本数 4,895,806本
累計CO₂吸収量 1,179.2t-CO₂

イオンモール全体の
累計植樹本数 651,797本
累計CO₂吸収量 157.0t-CO₂

エネルギー総使用量
CO₂排出量 155,892t-CO₂

CO₂吸収

CO₂排出

